

6 課

2月11日

天に宝を積む



安息日午後 2月4日

暗唱聖句

人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。(マルコ8:36、37、口語訳)

人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。(マルコ8:36、37、新共同訳)

今週の聖句

創世記6:5~14、ヘブライ11:8~13、2コリント4:18、創世記13:10~12、創世記32:22~31、ヘブライ11:24~29

今週のテーマ

イエスは、私たちに世界最高の投資戦略を与えられました。「あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない」(マタ6:19、20)と言われ、次のように結んでおられます。

「あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ」(同6:21)。言い換えれば、「あなたが何のためにお金を使っているかを見せてごらんください。そうすれば、あなたの心がどこにあるかを教えよう。なぜなら、あなたがお金を使うところに、あなたの心があるからだ。また、もしあなたの心がまだそこにはないのなら、必ずそこに来るであろう」と言われるのです。

あなたは神の国への心が欲しいですか。もしそうであれば、あなたのお金を永遠の報いを得るところに置きましょう。あなたの時間とお金と祈りを、神の働きのために用いましょう。もしそうすれば、あなたはすぐに神の働きに興味を持つようになり、あなたの心もそこに向くようになるでしょう。今週、私たちは、天に宝を積み、最終的に永遠の報いを得る方法を示す聖句とその事例について学びます。

天の宝を求める人々は、この地上で、しばしば神から大きな人生の変革をするように求められていることは注目に値します。必要であれば、あなたの人生にも同じことが起こる備えをしましょう。

問1 創世記6:5~14を読んでください。神に従った結果、ノアはどんな大きな変革を求められましたか。差し迫った破滅を警告する必要があるこの世の中で、私たちはここにどんな原則を見ることができますか。

ノアは、自らの時間と財産を費やして自分の家を建てることもできましたが、人生を大きく変え、自分の生涯のうちの120年間で神の召しに従って箱舟を造ることに費やすことを選びました。

今日、多くの懐疑論者は、既知の自然の法則による科学的推測に基き、洪水の物語をただの神話として退けています。これは何も新しいことではありません。「洪水前の人々は、数世紀間に自然の法則は固定したと論じた。季節の移り変わりは周期的にやってきた。雨はそのときまで降ったことがなかった。地は、霧や露でうるおされていた。川は、まだあふれたことがなく、安全に海に注いでいた。定められた法則によって、水は堤を越えてあふれなかった」(『希望への光』49ページ、『人類のあけぼの』上巻94ページ)。洪水の前、人々は現実の誤った理解に基づいて、洪水は決して起こるはずがないと主張しました。また洪水の後には、現実の誤った理解に基づいて、洪水は初めから起こらなかったのだと主張しています。

一方、聖書はまた、人々は洪水のときと同様に、終わりの時の出来事に懐疑的であると言っています(2ペト3:3~7参照)。では、どうすればやがて訪れる滅びに備えることができるのでしょうか。[目先の欲求を我慢する][満足遅延耐性]と呼ばれる意識的な決断があります。これは基本的に、より輝かしい将来の報いを待ち望み、神が私たちに求められた働きを忍耐強く行うべきであることを意味しています。私たちは、キリストがいつ戻られるかわかりません。ある意味、それが問題ではありません。代わって重要なことは、私たちはノアのように、何らかの大きな人生の変革を意味するとしても、その時に神が私たちに求めておられることを行うということです。

あなたは、ノアのように、神のために人生を大きく変える備えがありますか(ルカ16:10参照)。

神はアブラムに、故郷と親族を離れ、神が示される地に行くように召されました。詳細は明らかにされていませんが、アブラムは生まれ育った土地を離れなければなりませんでした。それは簡単な決断ではありませんでしたし、そのために地上の楽しみや便利さをあきらめたことは間違いありません。

問2 創世記 12：1～3 を読んでください。この約束と召しを受け入れることの結果として、どのように「地上の氏族はすべて……祝福に入（り）」ましたか。

これは、アブラムとその家族にとって人生を大きく変える出来事でした。「信仰によって、アブラムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです」（ヘブ11：8）。「アブラムの絶対服従は、全聖書を通じて見られる最も驚くべき信仰の例証の1つである」（『希望への光』60ページ、『人類のあけぼの』上巻122ページ）。

私たちのほとんどは、故郷や友人家族から離れようとは思わないでしょう。しかし、アブラムはそうしました。アブラムは、神が望んでおられる場所にいることを喜びとしました。奇妙に思われるかもしれませんが、アブラム、イサク、ヤコブは、彼らの生きている間に約束の地を受け継ぐことはありませんでしたが、それでもなお神に忠実であり続けました。

問3 ヘブライ 11：8～13 を読んでください。ここで、現代の私たちにも意味のあるメッセージは何ですか。

アブラムは、周囲に住んでいた人々からは神のつかさとして知られていました。彼は寛大で、勇敢で、親切で、いと高き神の僕として知られていました。彼の神への証は、模範的なものでした。神の恵みによって、私たちはアブラムの相続人です。「それは、『アブラムは神を信じた。それは彼の義と認められた』と言われているとおりです。だから、信仰によって生きる人々こそ、アブラムの子であるとわきまえなさい」（ガラ3：6、7）。「あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラムの子孫であり、約束による相続人です」（同3：29）。

アブラムもノアと同様に、神に従うとき、人生を変えるような大きな決断をしていることが分かります。

アブラムが神の召しに応じて故郷を離れたとき、甥おいのロトも一緒に旅に出る決断をしました。創世記13章は、神はアブラムを祝福され、彼が「非常に多くの家畜や金銀を持って」（創13:2）おり、ロトもまた「羊や牛の群れを飼い、たくさんの天幕を持って」（同13:5）いたことを記しています。互いの羊飼いたちの争いを避けるため、アブラムは、ロトに自分が住みたい場所を選ぶように言いました。ロトはアブラムに従うべきでした。アブラムは年上であり、ロトの繁栄はアブラムとのつながりによるものであったからです。しかし、ロトは、恩人に感謝することなく、自分本位に、自分が一番良いと思う土地を求めました。

問4 創世記13:10～12を読んでください。ロトをこのような決断へと導いた合理的な要因は何でしたか。

ロトが町へ移る決断をしたことをどんなに正当化できたとしても、そこで事はうまく運びませんでした。アブラムは、ロトに起こったことを聞くと、「残念だったな、ロト、自分のまいた種は自分で刈り取りなさい」とは言いませんでした。アブラムはロトを救うために立ち上がります（創14章参照）。

私たちは時々、より多くのものを追い求めるあまり、教訓を十分に学べないことがあります。ロトは、すぐソドムに戻りました！しかし、神の大きなあわれみにより、神はロトとその家族に警告の使者を遣わされ、これらの町々に滅びが迫っていることを告げられました。

問5 創世記18:20～33を読んでください。神はアブラハムに、どんな理由で地上に来られたと言われましたか。神がこれらの邪悪な町々を滅ぼそうとしておられることを聞いて、アブラハムはどのように応答しましたか。

アブラハムは、ロトとその家族を心配して、正しい人がいれば町を救ってくださいと神と交渉しました。彼は50人から始めて、10人まで数を減らしました。神の愛のご品性と一致して、アブラハムが求めるのをやめるまで、神は、決してあわれみを与えることをおやめになりませんでした！神と2人の天使は、ロトとその妻、そして2人の娘を救われます。しかし、彼の妻は振り返り、塩の柱になりました。ロトは、裕福な人としてソドムに入りましたが、何も持たずに逃れました。私たちが決断を下すとき、大局的な見方とは対照的に目先の利益だけを考えることに、どれほど注意する必要があるのでしょうか（マコ8:36、37参照）。

ヤコブは、神を愛し、畏れる若者であったにもかかわらず、母親のリベカと共謀して父親を欺き、祝福をだまし取りました。その結果、彼は誤った道を歩き始め、逃げるか、おそらく、早死にしなければならなくなりました。リベカはヤコブに言いました。「わたしの兄ラバンの所へ逃げて行きなさい。そして、お兄さんの怒りが治まるまで、しばらく伯父さんの所に置いてもらいなさい。そのうちに、お兄さんの憤りも治まり、お前のしたことを忘れてくれるだろうから、そのときには人をやってお前を呼び戻します」(創27:43~45)。ヤコブは、実際にはその後、20年間故郷を離れ、二度と母親の顔を見ることはありませんでした。

問6 創世記 32:22~31 を読んでください。ヤコブに何が起こりましたか。この物語から、私たちがたとえ間違った決断をしても、神の恵みがあることについて、どのような霊的教訓を学ぶことができますか。

「罪深く、まちがいを犯した人間が、謙遜と悔い改めと自己降伏とによって、天の王に勝ったのである。彼は ふるえる手で神の約束にすぎた。そして、無限の愛に富む神の心は、罪人の哀願を退けることができなかった。欺瞞きまんによって長子の特権を獲得するという罪にヤコブを陥れた誤りが、彼の前にはっきりと示された。彼は、神の約束に信頼せず、神が、ご自分の時と方法によって達成しようとされることを、自分の努力で実現させようとした。……ヤコブは、彼の魂こゝろが願い求めた祝福を受けた。彼が人をおしのけ欺いた罪は赦された」(『希望への光』98ページ、『人類のあけぼの』上巻215、216ページ)。

問7 創世記 49:29~33 を読んでください。その洞穴にはだれが葬られていましたか。ヤコブはなぜこのように息子たちに命じたのでしょうか。

聖書は、3人の父祖とその妻たちが皆、同じ洞穴に葬られていると語ります。ヤコブの神への信頼は強く、彼は自分を地上ではよそ者であり仮住まいの者であると考えていました(ヘブ11:13参照)。ヤコブは、過ちを犯し、何も持たずに家を出ましたが、裕福になってカナンに戻って来ました。

過ちを犯してもなお神は私たちに祝福してくださいます。しかし、最初から過ちを犯さなければ、どんなに幸いなことでしょうか。あなたは今どんな選択に迫られていますか。どうすれば誤った選択を避けられるでしょうか。

モーセの品性は、彼の生涯の初期に形づくられました。彼は、行動力のある母と思いやりのある姉を通して働かれた神の摂理のうちに生かされました。ファラオの娘は、パピルスで編んだかごに入れられた赤ちゃんモーセを見つけると、ヘブライ人の母親にモーセの世話を頼み、乳母として雇いました。異郷の奴隷であった若い母親にとって、なんと祝福された挑戦だったことでしょうか！母であるヨケベドが、わが子に、祈ること、神を信頼し敬うことを教え、奉仕の人生を送るために必要な品性を形づくるために、わずか12年しかありませんでした。モーセは、何年もの間、エジプトの宮廷で訓練を受けました。「そして、モーセはエジプト人のあらゆる教育を受け、すばらしい話や行いをする者になりました」（使徒7：22）。モーセは、1人の人間として成長したとき、自分の人生と歴史の流れを変える意識的な決断をしました。

問8 ヘブライ 11：24～29 を読んでください。モーセは何を捨て、何を受け、何を選んだのでしょうか。決断する前の彼の立場になって考えてください。

エジプトは当時、古代世界で最も偉大な大国の一つでした。ナイル川は肥沃な土地を生み、作物をたわわに実らせるエジプトは、豊かで力強い国でした。モーセはこの王国の高い地位にいました。モーセの生涯の初期に、世の誘惑、エジプトの王国とその財宝のすべてが、彼にとってどれほど魅力的であったかは想像するに難しくありません。確かに彼は、偶像崇拜、快樂、富、誘惑を知っていました。疑うことなく、彼は、軽蔑されている奴隷の一団と運命を共にすることよりも、エジプトに留まることを正当化するほうが簡単であったはずで

す。しかし、モーセは、聖書が言うように、「はかない罪の楽しみにふけるよりは、神の民と共に虐待される方を選び」（ヘブ11：25）ました。出エジプト記の大部分は、彼の苦難と試練を書き記しています。しかも、すべての困難を通り抜けてもなお、約束の地に入ることはできませんでした（民20：12参照）。しかし、私たちは皆、モーセが正しい選択をしたことを知っています。彼が、たとえ何度も本当に正しい選択をしたか疑問に思うことがあったとしても、彼の選択は、正しいものでした。

世적인見方をすれば、モーセはエジプトに留まるべきでした。しかしクリスチャンとして私たちは、この世を越えて真実を見ます。世の誘惑を前に、どうすれば私たちは常に大局的な見方を持ち続けることができるでしょうか。

神は、アブラハムを祝福することによって契約における神の分を全うされました。そしてアブラハムは、地上に宝を蓄えないことによって神をあがめました。「神がその民に約束された嗣業は、この世のものではない。アブラハムは、地上で何も持たず、『遺産となるものは何一つ、一步の幅の土地すらも、与えられなかった』(使徒行伝 7:5)。彼は大きな財産を持っていたが、彼はそれを、神の栄光と同胞の幸福のために用いた。しかし、彼は、この世を自分の故郷と思わなかった。主は永遠の所有として、カナン^{あんにっ}の国を与えることを約束して、偶像礼拝者の親族から離れることを彼に命じられた。しかし、彼も、彼の子も、孫も、約束の地を受けなかった。アブラハムは、死者を埋葬する地がほしかったとき、カナン人から買わなければならなかった。約束の地の彼の唯一の所有は、マクベラのほら穴の岩にほられた墓だけであった」(『希望への光』83ページ、『人類のあけぼの』上巻178、179ページ)。

人生を送るとき、私たちは時に富や安逸^{あんにっ}に向かう誘惑に遭います。目先の欲求を我慢するために強い信仰が求められます。「彼らは、パロの壮麗な宮殿や王座をさし示して、モーセの心を引きつけようとした。しかし神を度外視した罪の快樂が、その堂々たる宮廷にあることを彼は知っていた。彼は、華麗な宮殿や王冠のむこうの、罪に汚れていないみ国において、至高者の聖徒たちに与えられる大きな栄光を仰いでいた。彼は、信仰によって、天の王が勝利者の頭におかれる朽ちない冠を見ていた。このような信仰が、モーセに、地上の偉大な人々を離れて、貧しい軽蔑された民族に加わり、罪に仕えるよりは神に従うことを選ばせたのである」(『希望への光』124ページ、『人類のあけぼの』上巻280、281ページ)。

話し合いのための質問

- ① イエスが再臨されるととき、私たちの持ち物はどうなるでしょうか(2ペト3:10参照)。再臨の前に、それらはどうなりますか(マタ6:20参照)。なぜ物事を正しい視点で捉えることは、常に大切なのでしょうか。
- ② イエスは「富の誘惑」(マコ4:19)について警告されました。イエスはここで何を言っておられますか。富はどのように私たちを欺きますか。
- ③ モーセが、すべてを捨てて奴隷の団を不毛の砂漠に逃れさせるよりも、エジプトに留まることを正当化できたかもしれない理由についてクラスで話し合ってみましょう。何が最終的にモーセにすべてを捨てる決断をさせたのでしょうか。